子育てサポート（１学年）

Ｎｏ．１

月	行 事	保護者にお願いしたいこと、その他
４月 親子で語り合うチャンス	入学式(10) 宿泊研修(高校での学習法) 進路希望調査 朝補習・朝の読書 PTA総会 家庭訪問	**〇環境の変化に速く慣れるように支援しましょう。** 環境の変化としては・弁当を持参する・通学時間が長くなる・授業のスピードが中学時代の３倍になる。宿題の量が３倍になる。・部活動が活発になるなどがあります。３ヶ月くらいは中学の生活や学習法から抜けきらないために悩む生徒がでてきます。悩みを理解して頂いて、「勉強しなさい」と口うるさく言うのではなく、学習に向き合える環境を作ってやって下さい。勉強は学校で厳しく指導します。 **〇規則正しい生活を送らせましょう。** 勉強を始める時間、寝る時間・起きる時間を決めさせて下さい。欠席が多いと推薦入試への出願ができなくなることもありますので、規則正しい生活をさせて、体調を整え、できるだけ欠席させないように気配りをお願いします。土、日に学校で勉強するのも規則正しい生活を送るのに効果があります。 **〇勉強は学校が責任を持ってさせます。** 勉強は学校が責任を持ってさせます。家庭では勉強しやすい環境作りをお願いします。子どもが精神的に落ち着く場所にしてください。 **〇担任の先生との連携を密にしましょう。** 欠席・遅刻の連絡は必ず保護者から連絡をお願いします。何か相談ごとがあったら、遠慮なくしてください。担任はその方がうれしいのです。 **〇子供の得意なことを話題にして話をして下さい。** 自分の得意なことは話して楽しい。話しているうちに自信がつきます。そして、家庭が高校生活が楽しくなります。 **〇弁当作りご苦労様です。** 弁当のおかずを考えるのも一苦労だと思いますが、脳の栄養になるおかずを考えて作ってください。 **〇宿泊研修。** 高校生活を送る上での基本的なことを学びます。また、中学校とすると内容の多い学習量をこなすために予習の仕方・授業の受け方・復習の仕方なども学びます。 **〇子どもの声を聞いてやりましょう。進路意識を育てましょう。** ・社会問題を扱ったテレビを見て話し合う。・自分の職場体験を話す。・子どもが突飛な希望を言っても、一応は尊重する。自分の将来の進路目標ができると、子どもはその目標に向かって勉強を頑張るようになります。 **〇子どもを比較しないでください。** 比較することは絶対にしないで下さい。「兄ちゃんはできたがこの子はダメです。近所の〇〇君は成績がいいのにうちの子は・・・」等は子どもを本当にダメにしてしまう恐ろしい言葉です。 **〇先生の悪口を言わないようにしましょう。** 保護者にとっては意見の合わない先生もいるかもしれません。でもその先生は、子どもにとっては理解のある先生かも知れません。保護者が悪口を言うと子どもも先生が嫌いになり、そうなると成績も良くなりません。 **〇担任との連携を密にしましょう。** 担任の先生との連絡を密にし、困ったことはすぐに相談しましょう。そのためにもＰＴＡや学級懇談などの会合には出席しまよう。 **〇学習成績について知っておいて下さい。** 中学校で成績の上位だった生徒が集まってきますので、高校のテストで下位になるとショックを受けます。南高校に入ってくる生徒の成績は、頑張れば全員国立大学に合格できる成績です。しかし、成績が悪いと諦めたり、部活動ばかりに打ち込んだりで勉強しなくなる生徒が出てきます。南高校で悪くても模試の全国順位で１０万番以内にいれば国立大学になんとか合格できます。

〇家庭訪問（７月・８月のクラスも有ります）。

家庭での学習環境を見せて頂いたり、学級懇談会では個人的には時間がとれないので、学校では聞けない保護者の本音等をお聞かせ下さい。

〇清楚な身なりをしているでしょうか。

子どもの身なりを気をつけて見て下さい。眉そり・シャツ出し・短いスカート・化粧などしていませんか。生活と勉強は関連があります。先ずは身なりからきちんとさせて下さい。

〇しつけをしっかりしてください。

言葉遣いやあいさつなどの基本的な生活習慣を身につけさせましょう。しつけとは良い習慣を身につけることです。学校では勉強をしっかりやらせます。

〇期待し過ぎは子供の重荷。

子供に期待するのは当然のことです。期待しないと子供は自分の存在意義が分からなくなったりしますから、期待しないといけません。しかし、逆に期待し過ぎると子供にとっては重荷になります。

〇一日一日を大切に充実した毎日を送れるように支えてください。

勉強をしていればよい子であるということはありません。家での仕事も何か責任を持ってさせて下さい。「ゲーム脳の恐怖」という本を読むと、ゲームが脳を蝕んでいるようです。自分の目で見て考えながらの読書を勧めます。

〇良いことをしたら褒める、悪いことをしたら叱ることが大切。

褒めて育てる事が推奨されています。しかしながら、間違ったことをしても叱られないで、良いときだけ褒めるのでは精神的に弱い子に育つ危険があります。間違ったことをした時には、怒るのではなく何故してはいけないのか分かるように諭し、叱ってください。

星野監督が話していました。「選手を育てるのも子どもを育てるのも同じで、いけないことをしたときには厳しく本気で叱り、良いことをしたときには心の底から褒めてやることが大切だ。」

〇褒美で勉強させるのは逆効果。

「成績が上がったら〇〇を買ってあげる。」とか、「〇〇を買ってあげるから勉強しなさい。」とか言って勉強させてもその場限りです。逆に子供から「勉強するから、〇〇を買って。」ということになります。自分の脳を鍛えて良い脳を作るために、本当に自分から進んで勉強するようにならないと、やらされる勉強では効果のある勉強にはなりません。

〇保護者の励ましは子どもの力のみなもと。

子どもが勉強をするときには、安心して勉強できる環境を作ってやることが大切です。声をかけてください、励ましてください。子どもは見守られていることを実感できますので安心して勉強が出来ます。

〇生活のルールを決めて守らせましょう。

就寝時間・門限（外泊は禁止）・服装等守るべき最低のルールを決めて子供に守らせましょう。してはいけないことをはっきりさせることはとても大切なことです。ルールを破ったときは本気で怒ってください。本気で親業に取り組むことが子供の成長に大いに役立ちます。

〇子供の変化に気を配ってください。

子供を駄目にしてしまう原因の一つに、見て見ぬ振りをすることがあげられます。保護者が子供の様子や態度が変わってきたと感じても、子供の反発を避けたいために問いたださない。保護者にとってはこの方が楽ですが、子供はますます深みにはまって取り返しがつかなくなる事もあります。勇気を出して子供とのコミュニケーションを図りましょう。

※４月にたくさんのことを書いてありますが、これらの多くが年間を通して気をつけておいて頂きたいことです。